

建設通信新聞

発行所 日刊建設通信新聞社
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-13-7
電話(03)3259-8711
FAX(03)3259-8730
振替貯金口座00190-2-97953
©日刊建設通信新聞社 2010

建設通信新聞

切れない堤防の幻



～ダム是非検証“考”～①

政権交代によるダムの「継続・中止」検証に今秋、結論が出る。現政権のキヤッチフレーズ・ダムによらない治水で、急浮上したのが「切れない堤防論」だ。焦点は越流すれども切れない堤防の実現可否といつてよい。竹林征三富士常葉大名誉教授の連載論考(5回)を通じて考えてみる。

堤防が決壊すれば、何をなぞねばならないか。決壊箇所を早く一刻も早く閉塞することである。

事故で動脈が切れ、血が噴き出している時、一刻も早く出血を止めなければ大量出血で死に至る。それとまったく同じである。決壊箇所の修復にもたつくと、決壊箇所はどんどん拡がり、堤内地*の浸水被害はますます大きくなっていく。

堤内地に降った雨水をポンプなどで排水することを内水排除という。排水機場が配備されているところでも、とんとんと押し寄せてくる外水でも排水で



富士常葉大名誉教授 竹林 征三氏

きる排水ポンプなど整備されていない。決壊箇所から侵入してくる外水を一刻も早くたち切らねばならないのだ。

◇ ◇
1917年の淀川右岸大塚切れに対し、堤防の決壊口の締切り工事の総指揮をとった当時の柴田善三郎大阪府内務部長(後に知事)の懐古談には、非常時

困難の極・決壊口締切り

超法規の非常事態

・危機管理に対する学がべき知識があつてほしい。そのこころを紹介したい。

「人は地位によって物を大きくも解決するし、小きくも解決する。故に関係する三郡(三島・西成・北河内)長に全責任をもってあたれ。権限を与えよ」
「非常時である。会計の法

規に囚われることはない。必要な物資を相手が一銭といつものを一銭五厘を出しても早く調達しろ。たとえいへら金が掛つても金にについては一切厭目をつける必要はない。場合によっては証拠書類を取れなくてもよい。口真つ直ぐな気持ちをもちて最善を尽せ。問題が

いことを示すものといえよう。このように始まった締切り工事は、10月23日になって、当初(10月初め)270間あった切れ所がだんだん堰き止められて来て、あと30間のところまできた。10月24日、最後の締切りをやろうとした時、最初は水の深さが10尺であったものが、どんどん深くなり5間の長さの杭の

生じたら自分が責任を負う根が浮き上がり揺らぐという状態になってきた。

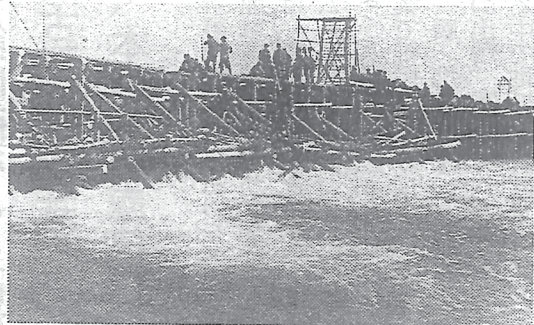
「府の方の設計額は六万七千円に対し、業者側は五万四千円で請負とのことに対し、設計額と請負額との差金は全部賞与として与へる」と命じたという。非常な時は通常の常識に囚われてはならない

た。大久保利武知事は失敗に対し、何のお咎めもなく、第2回目の締切りに着手することになった。主任技術者を今度は内務省から仰ぎ、すべて直轄で施工することとし、さらに今回は軍隊の援助も受けることと、10月28日から11月7日まで11日間の短期決戦で完成にこぎつけた。

この11日間の締切り工事で投入に必要な材料を、まず何がなんでも3日間で調達して現場まで搬入しなければならぬ。粗梁3万5000束、石材1000坪(1坪の石は10坪である。10トの貨車30両列ねて1列車、その30列車分)、それに船を手配しなければならぬ。

内務大臣の後藤新平から激しい催促が飛ぶ。さらに悪いことには、10月24日に水が出て、1時間ごとに水高が上がって来る。とうとう第1回目の締切り工事は断念せざるを得ない状況となり、これまでの締切作業はすべて水の泡となり失敗に終わっ

柴田部長は「俺がすべて責任を持つから、淀川に置いてある船を全部調達していい。夜中ではあるし、恐らく船には鎖がかけてある。縄がかけてある。誰のものでも構わない。鎖があれば鎖を切り、縄があれば縄を切って、1艘について10円だけの金を傍に置き、しばらく大阪府が拝借したと書いて、直ぐに持って来い」と命令して手配している。



カスリン台風による利根川決壊を修復する「川筋(かわとび)」職人「間組百年史」より

たのである。堤防といつものは想定されている洪水以上のものがくれば、必ず破壊する。破壊した時は上記のような状況を想定した危機管理対応まで考えておかなければならないといつてよい。

不測の事態に対して、迅速かつ的確な危機管理が重要であることはもちろんだが、そもそもこんな大変なことになるように、どうすれば良いか、国家百年の計を立て、一歩一歩着実に治水の安全度を高めていく以外にないのである。安全な国土は一日にしてならず。

このように、現在では到底考えられない超非常事態の超法規的決死の大作戦で、11月と1週間でもよやく締切りが完了し

「このように、現在では到底考えられない超非常事態の超法規的決死の大作戦で、11月と1週間でもよやく締切りが完了し

*堤内地とは
堤防によって洪水氾濫から守られている住居や農地のあり側。逆に堤防に挟まれて河川が流れている側を堤外地と呼ぶ。氾濫原や低地帯では、輪中堤によって洪水という外敵から守られているという感覚から、堤防の内側に住んでいるところを呼ばれていた名残の呼び方。